

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月14日

【四半期会計期間】 第67期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 T O A 株式会社

【英訳名】 T O A C O R P O R A T I O N

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 井 谷 憲 次

【本店の所在の場所】 神戸市中央区港島中町七丁目2番1号

【電話番号】 078(303)5620

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 田 中 利 秀

【最寄りの連絡場所】 神戸市中央区港島中町七丁目2番1号

【電話番号】 078(303)5620

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部長 田 中 利 秀

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第66期 第2四半期 連結累計期間	第67期 第2四半期 連結累計期間	第66期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	18,359	18,929	42,412
経常利益	(百万円)	1,348	1,385	4,444
四半期(当期)純利益	(百万円)	702	831	2,692
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,939	1,209	4,823
純資産額	(百万円)	34,531	36,771	36,671
総資産額	(百万円)	43,052	46,871	47,449
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)	20.75	24.55	79.50
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	76.8	75.3	74.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	39	1,285	3,144
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	438	146	805
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	354	531	755
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	12,602	15,698	15,296

回次		第66期 第2四半期 連結会計期間	第67期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	19.15	27.17

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、国内では経済政策や金融緩和を背景に、設備投資が上向くなど、緩やかな回復が見られるものの、急激な円安による原価上昇や、人手不足に伴う工事の遅れなどによる景気の下振れも懸念されております。海外では欧州の景気回復が足踏みしたものの、米国経済については順調な回復が継続しており、中国経済では景気支援策の効果による持ち直しが見られました。

このような環境の下、国内市場においては、ネットワーク配信技術と業務用音響、映像に関する商品・技術を組み合わせた高度なソリューションの提案を進め、事業の拡大に努めております。上期においては、街頭防犯カメラなど、顧客ニーズを先取りした商品の市場投入を行い、今後の販売拡大を見込んでおります。海外市場においては、各地域の顧客ニーズに応えた地域商品の提供により、各地域での販売を伸ばしております。

当第2四半期連結累計期間における売上高は18,929百万円（前年同四半期比+570百万円、3.1%増）となりました。利益については、原価率の上昇や販売費及び一般管理費の増加はあったものの、売上高が増加したことにより営業利益は1,175百万円（前年同四半期比+3百万円、0.3%増）、経常利益は1,385百万円（前年同四半期比+36百万円、2.7%増）、四半期純利益は831百万円（前年同四半期比+128百万円、18.3%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（日本）

売上高は11,985百万円（前年同四半期比+92百万円、0.8%増）、セグメント利益（営業利益）は2,072百万円（前年同四半期比 140百万円、6.4%減）となりました。

街頭防犯カメラやネットワークカメラシステム等のセキュリティ商品や減災・防災関連市場への売上高は堅調に推移しましたが、為替円安による原価率の上昇や販売費及び一般管理費の増加などにより、セグメント利益は減少しました。

（アメリカ）

売上高は1,160百万円（前年同四半期比+15百万円、1.3%増）、セグメント利益（営業利益）は 27百万円（前年同四半期比+45百万円）となりました。

アメリカの鉄道車両向け売上高の増加に加え、為替円安の影響もあり売上高、セグメント利益は増加しました。

（欧州・ロシア）

売上高は2,423百万円（前年同四半期比+357百万円、17.3%増）、セグメント利益（営業利益）は277百万円（前年同四半期比+83百万円、43.0%増）となりました。

ロシア地域の売上高は減少しましたが、欧州で非常放送設備の販売が堅調に推移したことや、アフリカ南部への販売網整備などにより、売上高、セグメント利益は増加しました。

（アジア・パシフィック）

売上高は2,606百万円（前年同四半期比+62百万円、2.4%増）、セグメント利益（営業利益）は302百万円（前年同四半期比+5百万円、1.8%増）となりました。

為替変動による売上高の目減りはありましたが、地域商品の販売が伸長したことや、タイで商業施設向けの販売が増加したことなどにより、売上高、セグメント利益は増加しました。

(中国・東アジア)

売上高は754百万円(前年同四半期比+42百万円、6.0%増)、セグメント利益(営業利益)は99百万円(前年同四半期比+42百万円、75.3%増)となりました。

台湾、香港地域の売上高は減少しましたが、中国国内で商業施設向けや空港向けの販売が伸長し、売上高、セグメント利益は増加しました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は46,871百万円となり、前連結会計年度末に比べ577百万円の減少となりました。資産の部における減少の要因は、売上債権の減少などによります。負債及び純資産の部における減少の要因は、仕入債務の減少、会計方針の変更や配当金支払による利益剰余金の減少などです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は15,698百万円となり、前連結会計年度末に比べ402百万円の増加となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益による増加1,427百万円、減価償却費389百万円、売上債権の減少額2,224百万円、たな卸資産の増加額 1,067百万円、仕入債務の減少額 360百万円、法人税等の支払額 790百万円などにより、営業活動による資金の増加は1,285百万円となりました。

前第2四半期連結累計期間との比較では、たな卸資産の増加による資金の減少が925百万円多かったものの、仕入債務の減少による資金の減少が1,047百万円少なかったこと、売上債権の減少による資金の増加が416百万円多かったこと、法人税等の支払いによる資金の減少が301百万円少なかったことなどにより、1,246百万円の収入の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産売却による資金の増加170百万円、生産設備や本社設備の取得による資金の減少348百万円などにより、投資活動による資金の減少は146百万円となりました。

前第2四半期連結累計期間との比較では、無形固定資産の取得による支出が55百万円多かったものの、定期預金の払戻による資金の増加が161百万円多かったこと、有形固定資産の売却による収入が169百万円多かったことなどにより、291百万円の支出の減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

配当金の支払608百万円などにより、財務活動による資金の減少は531百万円となりました。

前第2四半期連結累計期間との比較では、短期借入金の増加額が108百万円多かったものの、配当金の支払が270百万円多かったことなどにより、177百万円の支出の増加となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

当社は、平成20年2月15日開催の取締役会において、「当社株式の大規模な買付行為への対応方針（買収防衛策）」（以下、「本対応方針」という。）を決議し、導入いたしました。その後、平成20年6月27日開催の第60回定時株主総会において、株主の皆さまのご承認をいただき継続し、直近では平成26年6月25日開催の第66回定時株主総会の決議により継続しております。

基本方針の内容の概要は次のとおりとしております。

基本方針の内容の概要

当社は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、当社の取締役会の賛同を得ずに行われる、いわゆる「敵対的買収」であっても、企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。特定の者の大規模買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆さまの判断に委ねられるべきものであると考えます。したがって、当社取締役会としては、株主の皆さまの判断に資するために、大規模買付行為に関する情報が当該買付者から提供された後、これを評価・検討し、取締役会としての意見を取りまとめて開示することが必要と考えます。また、必要に応じて、大規模買付者と交渉したり、株主の皆さまへ代替案を提示することも必要と考えます。

今後当社株式に対して企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するような大規模買付行為がなされる可能性は否定できず、大規模買付行為が発生した場合に、株主の皆さまのために必要な情報や時間を確保する重要性は他社と変わらないことから、当社取締役会は事前の対応策の導入が必要であると考えます。

取組みの具体的な内容の概要

() 会社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組み

当社は昭和9年の創業以来、業務用・プロ用の音響設備とセキュリティ設備の専門メーカーとして、神戸の地から100ヵ国を超える世界の国々へ商品を送り続けてきました。T O Aグループでは、長年培った技術力やノウハウを武器に、商品の企画・開発から生産、販売、運営に至るまでの業務を一貫して手掛けています。“音”や“安全”を通じ、快適な暮らしを皆さまにお届けできるよう、音響、映像、ネットワークなどの分野でさらに技術力を高め、より良い商品を作り続けてまいります。

音響事業では、駅やデパートのアナウンス設備や、コンサートホールのアンプ・スピーカーなど、多彩な音響機器を通じて快適な日常を支えています。例えば、高度な音響システム技術が必要な空港の放送設備です。国内ではトップシェアを獲得し、海外でも多くの空港への納入実績があります。

セキュリティ事業では、防犯カメラシステムを中心とした防犯機器を扱っています。治安の悪化に伴い、防犯機器の需要は銀行や商店などから、街頭、マンション、学校などへと広がりがつあります。社会の安全を支えるこの分野を、当社では成長事業と位置付けています。

当社および当社グループは、今後も中長期的な視野に立ち、変革を続けていく中で、変えてはならない当社の技術力とモノづくりへのこだわりの継承を大きな強みとして、技術力の拡大、蓄積、創造をかさね、クオリティの高い製品とサービスを提供し、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

() 基本方針に照らして不適切な者によって会社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社取締役会は、大規模買付行為が、このような考え方を具現化した一定の合理的なルールに従って行われることが、当社の企業価値・株主共同の利益に合致すると考え、次のとおり事前の情報提供に関する一定のルール（以下、「大規模買付ルール」という。）を設定することといたしました。

大規模買付ルールの概要は次のとおりであります。

(イ) 情報の提供

大規模買付者は、大規模買付行為の前に、当社取締役会に対して予定する大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報（以下、「本必要情報」という。）を提供していただきます。

(ロ) 取締役会による評価と意見の公表

当社取締役会は、大規模買付者が当社取締役会に対し本必要情報の提供を完了した後、最大60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合）または最大90日間（その他の大規模買付行為の場合）を取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下、「取締役会評価期間」という。）として設け、その取締役会評価期間を公表し、大規模買付行為は、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるものとします。

(ハ) 独立委員会の設置

本対応方針において、大規模買付者が当社取締役会に提供すべき情報の範囲の決定、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しているか否かの認定、大規模買付行為が企業価値・株主共同の利益を著しく損なうか否かの認定、対抗措置の要否およびその内容の決定等については、その客観性、公正性および合理性を担保するため、当社は、取締役会から独立した組織として、独立委員会を設置します。当社取締役会は、かかる独立委員会に対して上記の問題を必ず諮問することとし、独立委員会は、諮問を受けた事項について審議し、その結果に応じて、当社取締役会に対して必要な勧告をすることとします。

当社取締役会は、対抗措置の発動または不発動について決議を行うに際して、必ず独立委員会の勧告手続を経なければならないものとし、かつ、独立委員会による勧告を最大限尊重するものとします。

大規模買付行為がなされた場合の対応方針の概要は次のとおりであります。

(イ)大規模買付者が大規模買付ルールを遵守する場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守する場合、当社取締役会は、大規模買付者から提供を受けた情報を総合的に考慮・検討した結果、当該大規模買付行為が当社の企業価値・株主共同の利益に資すると判断したときは、その旨の意見を表明します。他方、当該大規模買付行為に疑義や問題点があると考えたときは、当該買付提案について反対意見を表明し、または、代替案を提案します。これらの場合には、当社取締役会は、当社株主の皆さまに対して、当該買付提案に対する諾否の判断に必要な判断材料を提供させていただくにとどめ、原則として、当該大規模買付行為に対する対抗措置はとりません。大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、当社株主の皆さまにおいて、当該買付提案および当社が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等をご考慮のうえ、ご判断いただくこととなります。

もっとも、大規模買付ルールが遵守された場合であっても、当社取締役会において、当該大規模買付行為が当社の企業価値・株主共同の利益を著しく損なう場合で、かつ、対抗措置を発動することが相当であると判断したときには、当社取締役会は当社株主の皆さまの利益を守るために、当該大規模買付行為に対する対抗措置として無償割当てによる新株予約権を発行する場合があります。かかる場合の判断においては、外部専門家等および監査役の意見を参考に提供された本必要情報を十分に評価・検討したうえで、独立委員会の勧告を最大限尊重するものとします。

(ロ)大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社の企業価値・株主共同の利益を守ることを目的として、無償割当てによる新株予約権の発行を内容とする対抗措置をとり、大規模買付行為に対抗する場合があります。なお、対抗措置の発動を決定後に、大規模買付者が買付ルールを遵守する旨を表明した場合は、対抗措置の発動を取り消します。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守したか否かの認定および対抗措置の発動の適否・内容については、外部専門家等の助言および監査役の意見も参考にしたうえで、独立委員会の勧告を最大限尊重し、当社取締役会が決定します。

取組みの具体的な内容に対する当社取締役会の判断およびその理由

()買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

本対応方針は、経済産業省および法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（1.企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、2.事前開示・株主意思の原則、3.必要性・相当性の原則）を完全に充足しています。また、経済産業省に設置された企業価値研究会が平成20年6月30日に公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」に関する議論も踏まえた内容となっており、合理性を有するものです。

()株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本対応方針は、大規模買付行為がなされた際に、大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆さまが判断し、あるいは取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆さまのために大規模買付者と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるという目的をもって導入されるものです。

()株主意思を重視するものであること

本対応方針は、取締役会決議により導入されたものですが、そのことについての株主の皆さまのご意思を確認させていただくため、平成20年6月27日開催の第60回定時株主総会において、付議され、承認可決しており、その後も、3年以内に終了する事業年度に関する定時株主総会ごとに、継続の可否について承認を得るものとしております。また、本対応方針は、有効期間中であっても、株主総会または取締役会の決議により廃止することが可能です。このように、本対応方針には、株主の皆さまのご意思が十分に反映されることとなっております。

()合理的な客観的要件の設定

本対応方針は、大規模買付者による買付提案に応じるか否かが、最終的には株主の皆さまの判断に委ねられるべきであることを原則としており、合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ対抗措置が発動されないように設定されております。このように、本対応方針は取締役会による恣意的な対抗措置の発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

()独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社は、本対応方針の導入にあたり、取締役会または取締役の恣意的判断を排除し、株主の皆さまのために、対抗措置の発動および本対応方針の廃止等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として独立委員会を設置します。

実際に当社に対して大規模買付行為がなされた場合には、独立委員会が、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれがあるか否か等を評価、検討し、取締役会に対して勧告を行い、取締役会はその勧告を最大限尊重して決議を行うこととします。このように、独立委員会によって、取締役会の恣意的行動を厳しく監視するとともに、その判断の概要については株主の皆さまに情報開示をすることとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資する範囲で本対応方針の透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

()デッドハンド型買収防衛策ではないこと

本対応方針は、株主総会で選任された取締役で構成される取締役会によりいつでも廃止することができるものとされており、大規模買付者が、自己の指名する取締役を株主総会で選任し、かかる取締役で構成される取締役会により、本対応方針を廃止することが可能です。

したがって、本対応方針は、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1,434百万円であります。

なお、これらの研究開発活動は全報告セグメントを対象とするものであり、その成果として、当第2四半期連結累計期間に発売した主な新商品は以下のとおりです。

- ・ IPネットワーク経由でフルHD画質の高精細映像を配信する防犯カメラシステム「TRIFORAシリーズ」17機種を発売いたしました。画像圧縮方式には、滑らかな動画を高密度で圧縮するH.264を採用し、従来のアナログシステムの約6倍（当社比）にあたるフルHD（1920×1080pixel）画質の高精細映像を、最大30fpsのフル動画で、ライブ表示、記録・再生することが可能です。映像の閲覧は、レコーダーに接続したモニターテレビで行えるほか、専用ソフトをインストールしたパソコン上でも行うことが出来ます。最大でカメラ512台を一括管理するシステムを構築可能で、システムの拡張性に優れ、大規模施設の監視用途にも対応します。
- ・ 利便性の高い赤外線式と、通信の信頼性が高い有線式を統合できる「会議システム」8機種を発売いたしました。接続できる会議ユニットの最大数が192台で、既に発売済みの赤外線式に加えて、有線式の組み合わせも自由に選択できるシステムとなり、さまざまな会議形態に合わせた会議システムの構築が可能です。自治体や委員会の議会場や、各種企業、団体の会議室などでの使用を見込んでおります。
- ・ デジタルアンプを搭載し、業界初となる新機能を多数実現した「ワイヤレスアンプ」9機種を発売いたしました。軽量かつコンパクトなポータブルタイプの拡声器で、デジタルアンプの採用やチューナー電源オフ機能による省電力など基本性能のアップに加え、2台のワイヤレスアンプをリンクさせて最大10本のマイクが使用できる機能や、再生スピードを変更しても音程を保持する機能など業界初の機能を多数搭載しております。幼稚園や保育園、小中学校、会議室、冠婚葬祭など式場、選挙活動、商業施設でのイベントなどでの使用を見込んでおります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	78,820,000
計	78,820,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	34,536,635	34,536,635	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株でありま す。
計	34,536,635	34,536,635		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年9月30日		34,536,635		5,279		6,808

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,515	7.28
T O A 取引先持株会	兵庫県神戸市中央区港島中町7丁目2番1号	2,271	6.58
公益財団法人神戸やまぶき財団	兵庫県神戸市須磨区大黒町3丁目4-13-2F	2,000	5.79
井谷 憲 次	兵庫県芦屋市	1,693	4.90
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,681	4.87
シスメックス株式会社	兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-1	1,457	4.22
公益財団法人中谷医工計測技術振興財団	東京都品川区大崎1丁目2番2号アートヴィレッジ大崎セントラルタワー	1,297	3.76
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	1,188	3.44
井谷 博 一	兵庫県神戸市中央区	993	2.88
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワーZ棟	986	2.86
計		16,084	46.57

(注) 上記のうち所有株式数のうち、信託業務に係わる株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 2,515千株
資産管理サービス信託銀行株式会社 986千株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 671,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 33,826,300	338,263	
単元未満株式	普通株式 38,935		
発行済株式総数	34,536,635		
総株主の議決権		338,263	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には当社保有の自己株式66株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) T O A 株式会社	兵庫県神戸市中央区港島 中町7丁目2番1号	671,400		671,400	1.94
計		671,400		671,400	1.94

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年 9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,925	14,567
受取手形及び売掛金	9,809	7,500
有価証券	2,200	1,900
商品及び製品	5,979	6,611
仕掛品	462	640
原材料及び貯蔵品	2,039	2,095
その他	1,248	1,103
貸倒引当金	114	113
流動資産合計	35,550	34,304
固定資産		
有形固定資産	6,913	6,591
無形固定資産	1,169	1,335
投資その他の資産		
投資その他の資産	3,816	4,649
貸倒引当金	1	10
投資その他の資産合計	3,815	4,639
固定資産合計	11,898	12,566
資産合計	47,449	46,871
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,765	3,377
短期借入金	626	775
未払法人税等	695	239
引当金	304	368
その他	2,073	1,562
流動負債合計	7,465	6,323
固定負債		
退職給付に係る負債	2,435	2,851
その他	876	924
固定負債合計	3,311	3,776
負債合計	10,777	10,099
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,279	5,279
資本剰余金	6,866	6,866
利益剰余金	22,299	22,104
自己株式	389	390
株主資本合計	34,056	33,859
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,509	2,082
為替換算調整勘定	100	493
退職給付に係る調整累計額	249	166
その他の包括利益累計額合計	1,159	1,422
少数株主持分	1,455	1,489
純資産合計	36,671	36,771
負債純資産合計	47,449	46,871

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	18,359	18,929
売上原価	9,962	10,377
売上総利益	8,396	8,552
販売費及び一般管理費	1 7,224	1 7,377
営業利益	1,171	1,175
営業外収益		
受取利息	15	14
受取配当金	30	37
為替差益	48	91
その他	99	84
営業外収益合計	194	228
営業外費用		
支払利息	9	8
その他	7	9
営業外費用合計	17	18
経常利益	1,348	1,385
特別利益		
固定資産売却益	-	42
特別利益合計	-	42
税金等調整前四半期純利益	1,348	1,427
法人税等	512	468
少数株主損益調整前四半期純利益	836	959
少数株主利益	133	127
四半期純利益	702	831

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	836	959
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	169	572
為替換算調整勘定	933	473
退職給付に係る調整額	-	151
その他の包括利益合計	1,103	249
四半期包括利益	1,939	1,209
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,646	1,093
少数株主に係る四半期包括利益	293	115

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,348	1,427
減価償却費	399	389
退職給付引当金の増減額（は減少）	85	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	-	0
受取利息及び受取配当金	46	51
為替差損益（は益）	93	48
支払利息	9	8
製品保証引当金の増減額（は減少）	2	1
固定資産売却損益（は益）	-	42
売上債権の増減額（は増加）	1,807	2,224
たな卸資産の増減額（は増加）	142	1,067
仕入債務の増減額（は減少）	1,408	360
未払金の増減額（は減少）	221	168
その他	644	375
小計	1,092	2,028
利息及び配当金の受取額	47	52
利息の支払額	8	5
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	1,091	790
営業活動によるキャッシュ・フロー	39	1,285
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	195	221
定期預金の払戻による収入	102	263
関係会社株式の取得による支出	39	-
有形固定資産の取得による支出	207	192
有形固定資産の売却による収入	1	170
無形固定資産の取得による支出	100	156
貸付金の回収による収入	1	0
その他	0	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	438	146
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	59	167
自己株式の取得による支出	0	0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	38	33
配当金の支払額	337	608
少数株主への配当金の支払額	36	56
財務活動によるキャッシュ・フロー	354	531
現金及び現金同等物に係る換算差額	462	204
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	289	402
現金及び現金同等物の期首残高	12,892	15,296
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 12,602	1 15,698

【注記事項】

(会計方針の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<p>「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法について、平均残存勤務期間に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。</p> <p>この結果、第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が647百万円増加し、利益剰余金が417百万円減少しております。なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。</p>

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<p>税金費用の計算</p> <p>当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。</p>

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
販売諸経費	1,208百万円	1,126百万円
給料及び福利費	3,983 "	4,059 "
退職給付費用	199 "	261 "
賃借料	378 "	406 "
賞与引当金繰入額	90 "	62 "
減価償却費	180 "	185 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	11,384百万円	14,567百万円
譲渡性預金 (有価証券勘定)	2,200 "	1,900 "
預入期間が3か月を超える 定期預金	982 "	768 "
現金及び現金同等物	12,602百万円	15,698百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	338	10.00	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月1日 取締役会	普通株式	338	10.00	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	609	18.00	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月4日 取締役会	普通株式	338	10.00	平成26年9月30日	平成26年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期連 結損益計 算書計上 額
	日本	アメリカ	欧州・ ロシア	アジア・パ シフィック	中国・ 東アジア	計		
売上高								
外部顧客への売上高	11,892	1,145	2,065	2,544	711	18,359		18,359
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,575	39	1	1,826	1,899	6,341	6,341	
計	14,467	1,184	2,066	4,371	2,611	24,700	6,341	18,359
セグメント利益又は損 失() (営業利益又は営業損 失())	2,213	72	194	297	56	2,688	1,516	1,171

(注) セグメント利益の調整額 1,516百万円には、セグメント間取引消去 55百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,461百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門に係る費用であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)	四半期連 結損益計 算書計上 額
	日本	アメリカ	欧州・ ロシア	アジア・パ シフィック	中国・ 東アジア	計		
売上高								
外部顧客への売上高	11,985	1,160	2,423	2,606	754	18,929		18,929
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,988	11	3	2,049	1,578	6,631	6,631	
計	14,974	1,172	2,426	4,655	2,332	25,561	6,631	18,929
セグメント利益又は損 失() (営業利益又は営業損 失())	2,072	27	277	302	99	2,725	1,549	1,175

(注) セグメント利益の調整額 1,549百万円には、セグメント間取引消去 72百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,476百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門に係る費用であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	20円75銭	24円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	702	831
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	702	831
普通株式の期中平均株式数(株)	33,866,654	33,865,482

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第67期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)中間配当については、平成26年11月4日開催の取締役会において、平成26年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	338百万円
1株当たりの金額	10円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月6日

T O A 株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 朝 喜 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岡 本 健 一 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているT O A 株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、T O A 株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。